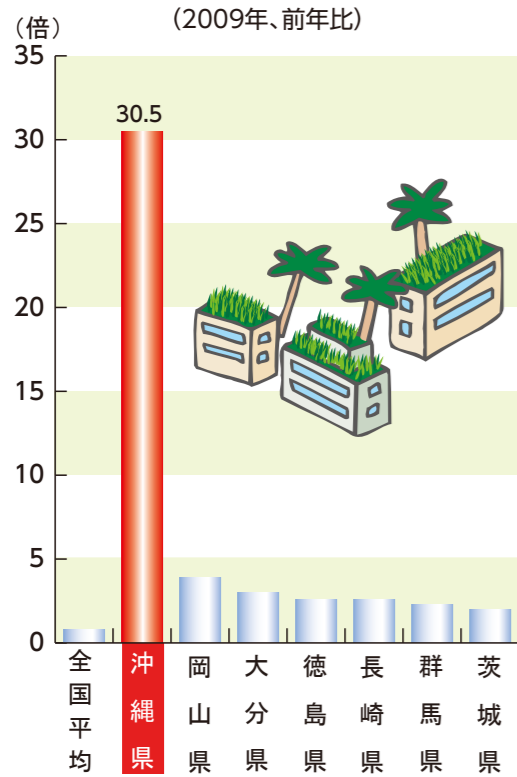


【屋上緑化施工面積の倍率】



30.5倍

近年沖縄は都市整備が進み、大型施設や建築物も増えているが、同時に土地を有効活用しながら緑を増やす工夫もしているようだ。

国土交通省の「2009年全国屋上・壁面緑化施工実績調査結果」によると、施工件数は多くないものの、県内における屋上緑化施工面積の対前年比倍率は30.5倍と突出して1位。全国的には07年をピークに屋上緑化の施工面積は年々減少傾向にあるそうだが、沖縄だけが急激な伸びを見せている。

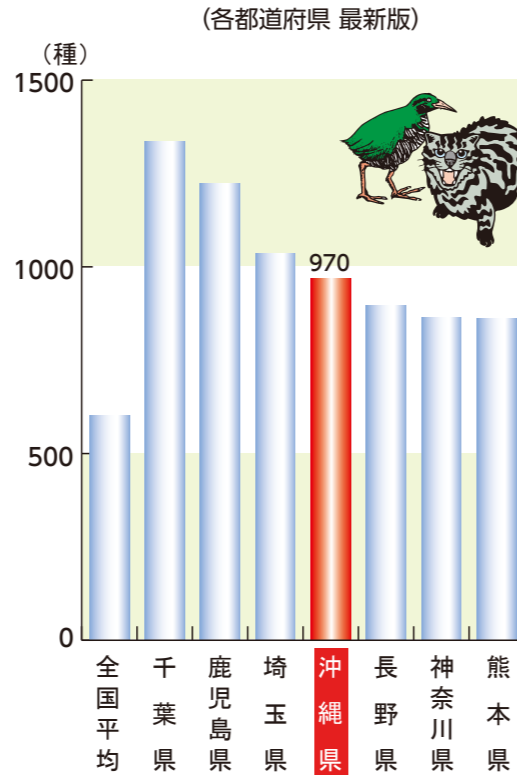
沖縄は強い日射しやスコール、台風等の影響を十分に考慮して施工をする必要があり、高い技術も求められるそうだが、技術進歩により解決できたのが要因か。

屋上に緑のスペースを設けることで癒しの効果が発揮され、憩いの場としての利用も可能になる。

沖縄の厳しい自然環境にも負けない屋上緑化の面積がさらに増えることを期待したいものだ。

(海邦総研事業支援部／比嘉明彦)

【絶滅危惧種の種数】



970種

沖縄独特の自然環境は、多様な生き物たちによって形づくられている。それは沖縄ならではの魅力であり、我々が共有する大きな資産といえるだろう。

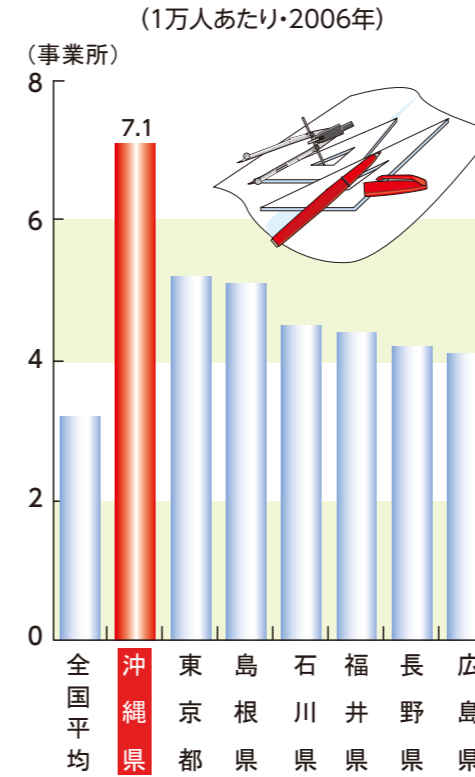
2005年に改訂された「レッドデータおきなわ」によると、沖縄には970種もの絶滅危惧種が分布している。これは全国平均の1.5倍以上である。

絶滅危惧種の選び方は都道府県ごとに異なるため、単純に他県と比較することはできない。しかし、狭い島々に、特に多くの希少種が存在しているということは容易に想像できる。

分布域が狭く、個体数が少ない生物ほど、絶滅のリスクが高いと言われている。希少な生き物の小さな集団が散在する沖縄の自然は、非常にデリケートなもの。私たちの生活や産業が、そうした環境の上に成り立っていることを忘れずにいたい。

(海邦総研事業支援部／鮫島智行)

【建築設計業事業所数】



7.1事業所

家づくりの依頼先には、設計事務所や建設会社(工務店)、ハウスメーカーがある。沖縄は、他県と違い、設計事務所に依頼する人が多いようだ。

2006年の総務省統計局「事業所・企業統計調査」によると、沖縄の建築設計業は985事業所となっている。これを人口1万人あたりに換算すると7.1事業所。これは全国平均の2倍以上の水準だ。

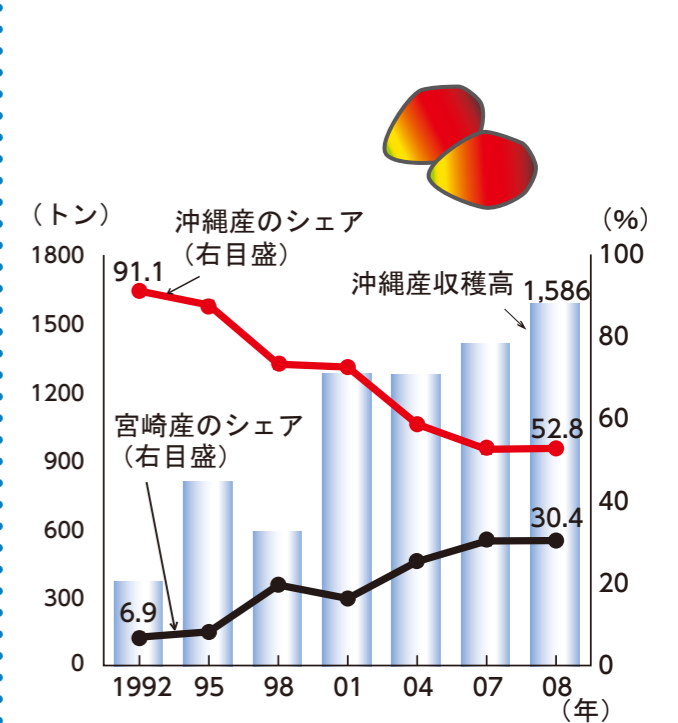
依頼先は、知人からの紹介、親せきのつながりのほかに、インターネットなどを利用して、探すケースも増えているようだ。

設計事務所に依頼する一番のメリットは、自分のスタイルや好みにあった家づくりができることだろう。ただし、建築士とのコミュニケーションがとれていないとトラブルになる場合もあるらしい。

設計には、十分な打合せが必要だが、こだわりが強い方には、メリットの方が多いかも？

(海邦総研経営企画部／新里治史)

【沖縄産マンゴーの産出量】



1,568トン

果物の王様と称されるマンゴー。贈答品としても喜ばれ、既に今年もお中元で贈ったという方も多いのではないだろうか。沖縄はいち早く栽培に着手した県であり、今やマンゴーは我が県を代表する果物の一つとなっている。

農林水産省の行った「特産果樹生産動態等調査」によると、2008年の沖縄産マンゴー収穫高は1,568トン。日本の総産出量の52.8%を占め、市場シェアで全国1位となっている。

しかし、沖縄での収穫高は年々増加傾向にあるにも関わらず、逆に市場シェアは低下し続けている。2位の宮崎が912トン、シェア30.4%と着実な伸びを見せており、首位の座も危うい状況だ。

亜熱帯性気候、青い海、そしてトロピカルフルーツ。沖縄のイメージにぴったりの果物だけに、今後もブランド力を強化し、1位の座を守り続けてほしいものだ。

(海邦総研経営企画部／瀬川孫秀)